



■国際協議会(1月14日～20日)が終了しました。”BE THE INSPIRATION/インスピレーションになろう”という次年度会長テーマが発表されました。

“ロータリアンたる者は行動して周りの人と共に世の中に好ましい変化をもたらしてゆこうよ。そして何よりも自分も変わろうよ”と訴えられました。ロータリーの世界は次年度へ向かって準備を始めましたが、現在私たちは当該年度の仕上げの期間を迎えましたが、成果はいかがでしょうか？5日間の理事会が開かれました。特記すべきことは、会員増強プログラムのフリートーキングでしょうか？皆様にお見せしたくなるほどの熱のこもったものでした。会員の 카테고리、資格案件、ゾーン地域別組織などが語られ、各理事がこの会員増強に必死な努力をされていることが伝わってきました。あの柔軟性あるクラブ運営を応用した新たなクラブの創設の評価はまだ途上です。むしろローターアクターをロータリーに迎える工夫を強化するようです。また、クラブに二つの数字(プロジェクトに費やしたお金とボランティア期間)を明示するよう求められています。奉仕活動(お金×期間)で可視化しようとする試みは少なくとも日本ではロータリー運動のマイナス要因となると考えます。これも国によって温度差がありますので一筋縄ではいかないでしょう。

国際ロータリー 理事 斎藤 直美

■「ロータリー・ボイス」ということ

近年、RIは「ロータリー・ボイス」ということを言っている。しかし、いまだロータリアンに浸透しているとは言いがたい。このボイスにはエッセンス・ステイメントという注釈がうたれている。ロータリーの魅力をこのボイスを使って分かりやすくストーリーで語ろう、というものである。このボイスは「賢明さ」・「思いやり」・「粘り強さ」・「行動を促す力」の4つである。ロータリーの広報・公共イメージアップを図るとき、このボイスの活用は有効である。

「賢明さ」は、博識・洞察力・自信を想起させる。世界122万人からなる経営者・専門職のネットワークは多面的なものの見方かつ問題解決を可能にする。また100年を超える歴史と伝統は組織としての知恵をもっている。

「思いやり」は「超我の奉仕」に象徴されるロータリーの社会奉仕・国際奉仕(6つの重点分野)などの「他人を思いやり、他人のために尽くす」活動がある。このボイスは相手に誠実さ、親身といったことを印象づける。

「粘り強さ」は、ときに諦観的な見方がされるポリオの撲滅に1985年以来30年を超えて取り組んでいる。またインターアクト・ローターアクト・青少年交換など、青少年の育成を半世紀に渡り粘り強く推進していることも特筆される。ポリオの現在の常在国はアフガニスタンとパキスタンの3国のみであり発症数も激減し、もう少しのところまで来ている。長年にわたるロータリーの貢献は大きく、ロータリーを語る時相手に明確な目標意識や勇気をイメージさせる。

「行動を促す力」は、ロータリーの理念を表す「2つの標語」、「ロータリーの目的」、「4つのテスト」など、私たちが奉仕活動へと鼓舞する理念・哲学がある。現在、「マイ・ロータリー」には情報資源が満載されている。この活用こそクラブの活性化、ロータリーの「公共イメージと認知度の向上」に求められているものである。クラブのボイス、自らの職業上のボイスを創ることも良いのではなかろうか。

第2ゾーン ロータリー公共イメージコーディネーター 柳生 好春

新ゾーン編成

ZONE 1: Section A: Japan (northern): 2500, 2510, 2520, 2530, 2540, 2550, 2560, 2800, 2830

Section B: Bangladesh, Indonesia, Pakistan: 3271, 3272, 3281, 3282, 3410, 3420

ZONE 2: Guam, Japan (central), Micronesia, Northern Marianas, Palau: 2570, 2580, 2590, 2600, 2610, 2620, 2750, 2760, 2770, 2780, 2790, 2820, 2840

ZONE 3: Japan (southern): 2630, 2640, 2650, 2660, 2670, 2680, 2690, 2700, 2710, 2720, 2730, 2740

■ お知らせ

この度、ロータリーコーディネーター補佐であった柳生好春パストガバナー(D2610野々市)が、イアン・ライズリー会長の任命によるロータリー公共イメージコーディネーターに就任いたしました。RPICとしての役割は即時開始となります。

前RPICの故・渡辺治夫様は公共イメージの取り組みを通じて会員増強にも貢献され、RPICの模範となる多大な貢献をされました。

■ ゾーン再編と増強目標

8年に一度のゾーンの再編が発表され1年がたちました。日本は3ゾーンから2.5ゾーンになります(2019年中に移行予定)。簡単に言うと1ゾーンを35,000人にする再編です。第1ゾーンにセクションAとBが新設され、Aには分割された旧第1ゾーンの地区、Bはバングラデシュ・インドネシア・パキスタンで構成されます。第2ゾーンに旧第1ゾーンの関東圏のほとんどの地区が入り、第3ゾーンに2630地区が加わるようになります。

1月31日現在、第1ゾーン28,731人、第2ゾーン28,157人、第3ゾーン32,976人で、合計89,864人です。次回のゾーン見直しは2024年の予定ですが、その2年前の2022年までに3ゾーン奪還の目安となる105,000人を再び突破させようとの目標を定めています。

単純に計算すると、これから毎年3.5%ずつ増強できれば、5年で106,730人になります。この間クラブ数の増減などさまざまな事象が起こると予想されますが、クラブも地区もゾーンもこの「年間3.5%増強」を目標に掲げ、次回ゾーンの再編の際には3ゾーンの奪還を果たしましょう。例えば、現在40人のクラブは2022年には48人にするということになります。とてつもなく難しいことではありませんね。問題は5年間、クラブや地区が増強のモチベーションを維持することができるのかにかかっています。つまりガバナー、GE、GN、GNDがしっかり引き継いで強靱なリーダーシップを進めていかなければなりません。

更に付け加えると、特に大都市圏ほどロータリアン比率が低いというのが現実です。人口1万人当たりのロータリアン数7.03人(国内平均値)を下回っている県・地区におかれましては、合わせて特段の増強の推進をお願い致します。

第2ゾーン ロータリーコーディネーター補佐 野口 英一